

米の国防情報提供か

中国に 米兵2人起訴

米司法省は3日、米海軍の兵士2人をスパイ法違反などの罪で起訴したと発表。中国側から金銭を得て国防情報を提供したという。米側は、米太平洋艦隊の動向を探る中国の情報活動の一端を示すものとして、警戒を強めている。

司法省によると、カリフ

画を提供した。将校は海洋経済学者だと身分を偽り、投資判断のために情報欲しと、ザオ被告に要望した。情報提供の対価として、約1万4866ドル（約212万円）を支払ったという。

また、強襲揚陸艦「エセックス」の乗員だったジンチャオ・ウェイ被告(22)は22年2月以降、エセックスや他の海軍艦船に関する機密情報を中国の情報将校に提供した、として起訴された。艦船の武器や推進力、

海水淡水化システムなどの機密に接することのできる立場だった。中国の情報将校の求めに応じ、数千ドルを受け取った。また、輸出規制がかけられた機密性の高い内容を含む技術や機械のマニユアル類も複数提供し、5千ドルを受け取ったという。

有罪となった場合、ザオ被告は禁錮20年、ウェイ被告は終身刑となる可能性がある、と司法省は説明している。

(ワシントン・下司佳代子)

米機密流出 21歳逮捕

州兵 ゲーム仲間と共有か

【ワシントン＝時田一彦、田島大志】米政府の機密文書がインターネット上に流出した問題で、米連邦捜査局（FBI）は13日、マサチューセッツ州の空軍州兵ジャック・デシェイラ容疑者（21）を逮捕した。オンライングループの仲間内で共



13日、米マサチューセッツ州でFBIに逮捕されるジャック・デシェイラ容疑者（左から2人目）（WCVB-TV、ABC提供、ロイター）

有した機密情報が、SNSに拡散されたとみられる。米軍の情報管理の課題が浮き彫りとなった。メリック・ガーランド司法長官は13日、記者会見し、「国防に関わる機密情報の不正な持ち出しや保持、送信の疑いの捜査で、容疑者を逮捕した」と説明した。米メディアによると、デシェイラ容疑者は機密文書を撮影し、ゲーム愛好家人気のオンライン通信サービス「ディスコード」のグループ内で共有した疑いがある。このグループには戦争ゲームや銃の愛好家の10〜20歳の男性を中心に約25人が参加し、「OG」を名乗るリーダー格がデシェイラ容疑者だったとされる。

機密文書を撮影した画像は昨年10月頃からグループ内で共有され始め、今年3月までに300点以上が共有された。一部のメンバーがこの画像を別のグループに転載し、4月に入るとテレグラムやツイッターなどのSNSで一気に拡散したという。4月まで米政府は流出に気付かなかったと報じられている。デシェイラ容疑者は、ネットワークの技術支援要員で、機密情報を取り扱う国防総省の内部ネットワークにアクセスする権限を持っていたという。CNNによると、無人機を使った情報収集など米空軍の活動を支援することも州兵の任務で、下級の兵士に機密情報へのアクセス権限が与えられることは珍しくない。米国では国家機密

を扱う適性を評価する「セキュリティ・クリアランス」という制度があり、「最機密」を扱える資格を持つ人は2017年時点で約120万人に上る。

密保護のため必要な追加措置をいとわない」と強調。機密文書へのアクセス権限の範囲や情報管理手続を見直すよう省内に指示した。

米軍の情報管理について、オースティン国防長官は声明を発表し、「機

米国では過去にも、中央情報局（CIA）元職員エドワード・スノーデン容疑者によるスパイ活動の暴露など、機密情報の流出が起きた。デシェイラ容疑者はグループ内で自分を印象付けるため機密文書を共有したとの報道もあり、一般に公開する意図はなかったとの見方が広がっている。

△関連記事国際面▽

米機密流出 軍管理甘さ

逮捕1か月

◆米機密文書流出事件を巡る経緯

2019年9月	デシェイラ容疑者が高校卒業後、空軍州兵に入隊
21年	軍のセキュリティー・クリアランスを受け、最高機密情報を取り扱う権限を取得
22年2月	「ディスコード」のグループで、ロシアのウクライナ侵略に関する機密情報の投稿開始
23年3月頃	ディスコードの複数のグループに機密文書を撮影した画像が転載され始める
4月初旬	テレグラムやツイッターなどに画像が拡散。米紙が機密文書流出を報道
4月13日	連邦捜査局（FBI）がデシェイラ容疑者を逮捕

※司法当局が裁判所に提出した資料や米メディアの報道に基づく

■作戦上必要

オースティン米国防長官は11日の上院公聴会で「機密情報を守るためのプログラムや手続きの包括的な見直しが必要だ」と述べ、

【ワシントン】「時田一彦」米国の機密文書がインターネット上に流出した事件で、マサチューセッツ州の空軍州兵ジャック・デシェイラ容疑者(21)が逮捕されて13日で1か月となった。ロシアのウクライナ侵略に関する分析などが漏えいし、米国の機密情報管理の信頼を揺るがす一方、米軍の構造的な問題も露呈した。再発防止に向けた課題は多い。

州兵も権限 ■投稿把握は困難

直しを指示したと述べた。バイデン政権は機密情報を閲覧できる人員を制限することを検討中だ。

ただ、範囲を狭めるのは容易ではない。21歳のデシェイラ容疑者が技術支援要員として「最高機密」を含む機密情報を扱う権限を持っていたことを問題視する見方もあるが、オースティン氏は「軍の大半は若い人

たちだ。重要なことを行うのは特別ではない」と述べ、下級兵士に権限を与えることと自体が問題ではないとの考えを示した。

■発言の自由

国家機密を扱う適性評価「セキュリティー・クリアランス」という制度の見直し論も上がる。デシェイラ容疑者は2021年に軍の適性評価を受けて機密情報の権限を取得したが、司法

当局などによると、以前から銃や武器に強い関心を持ち、高校時代には武器や人種差別に関する発言で停学処分を受けていた。自宅からは殺傷能力の高いライフルなど複数の武器が見つかった。

デシェイラ容疑者がオンライン通信サービス「ディスコード」のグループ内で機密情報の共有を始めたのは昨年2月とみられるが、米政府が流出に気付いたのはツイッターなどに拡散した今年4月だった。元情報当局者は米紙ボリテックに対し、「ネット上で自由に発言する権利を守る一方、何が行われているか把握する」という二律背反を解決する方法は見つかっていない」と対応の難しさを吐露した。

米機密文書流出 21歳州兵を起訴

【ワシントン＝藤田一彦】

米国の機密文書がインターネット上に流出した事件で、マサチューセッツ州の連邦大陪審は15日、空軍州兵ジャック・デシェイラ容疑者(21)を国防情報の意図的な保持・転送など6件の罪状で起訴した。司法省が

発表した。

デシェイラ容疑者は今年4月、連邦捜査局(FBI)に逮捕された。発表によると、2022年1月頃から、「最高機密」に指定された情報を含む機密文書を書き写したり、写真に撮ったりしてオンライングループで共有したとされる。デシェイラ容疑者は軍の適性評価を受けて機密情報を扱う権限を取得していた。